



## 『Access2000』による当図書室の資料管理システムについて

松尾 知香

### I. 導入のきっかけ

私が専任で現在の図書室担当になる以前は、医事課職員と病棟クラークが交替で図書室業務を兼務しておりました。両者とも前々任の図書室担当者（専任）からの引き継ぎがあったわけではないため、手探りの状態で業務を始めたそうです。そのため、私が専任で担当することになった当初、受入・文献依頼業務については前任者からの引き継ぎを受けることができましたが、その他の業務については図書室にあった業務資料と図書委員会の議事録を頼りに手探りの状態で行っていました。

資料を読み進めるうちに、以前の図書委員会で今後の図書室運営のためには「『情報館95』導入の必要性」があることについて話し合われていました。そこで、私も「情報館95」について自分なりに調査をし、担当当初の図書委員会で「情報館95」の導入について検討しました。その結果、年間の図書予算を少しずつ残してシステム購入に充てる、という方向で進めていくことになりました。

しかし、予算を残してシステムを購入するためには、年単位での長い期間が必要であり、導入までには最低でも3年はかかると予想されました。かといって導入するまでの間、書誌データの登録・整理をしないわけにもいかず、どのように管理すればよいか悩みました。

担当当初は図書の受入は行っていませんでしたので、図書データの登録業務はなく、定期購読雑誌データ（誌名・巻号・価格・冊数）につ

いてのみ、受入日ごとに「Excel」へ入力していました。そこで、担当するようになって約一年が過ぎた頃に、業務が軌道に乗ったことと、私自身が管理システムを一から作ることに少々興味があったことから、図書の受入再開を機に、統一した書誌データを作成しようと考えました。

幸い、前々任の図書担当者が「Access」を利用して管理システムを作成しようと思っていたようで、「Access」のマニュアル本が図書室にあり、「導入するまで」との軽い気持ちで「Access」を使用した管理システムを作成し、利用することにしました。

その後「情報館95」の導入についてはといたしますと、結局のところ導入にはいたらず、現在も自分で作成した管理データをより使いやすいように修正しながら利用しています。

### II. 「Access」とは？

ここで少し「Access」というソフトについて触れさせていただきます。

「Access」とは、データベースを作成・運用するためのソフトで、一度に大きなデータを処理できるのが特徴です。下記は「Access」で使用される主な用語です。

テーブル：入力したデータを表の形で保存したもので、データベースの基本となるもの。

フォーム：データ入力用の画面。

レポート：データを印刷するための画面。

### III. 資料管理

現在「Access」で作成したシステムは、書

誌データの管理にのみ利用しています（当図書室では相互貸借データ・予算データの管理は『Excel』で行っています）（図1）。そこで、“システム”と呼べる程のものではありませんが、皆様の御参考にもなればと思い、現在の利用内容を“雑誌”と“書籍”に分けて御紹介させていただこうと思います。

### 1. 雑誌管理

当図書室では、雑誌ごとに同じ形式のテーブルを作成し、書誌データを入力するようにしています。入力しているデータは、「受入年月日」「巻号・通巻」「発行年月日」「特集記事」「備考」です（図2）。「備考」欄には、検索する際にキーワードになる書誌事項（別冊附録のタイトルや簡単な内容など）を入力しています。今後は上記項目に「目次」の項目を追加したいと考えています。なぜなら、キーワードとなりうる言葉をより多くデータとして入力しておけば、検索する際に該当するキーワードが増え、探している文献が見つかる可能性がより高くなるからです。

しかし、現在のところデータが雑誌ごとに分かれているために、検索も雑誌ごとに行わなければなりません。その上、上記でも述べさせていただきましたが、キーワードの入力が不十分であるため、特集記事が掲載されていない雑誌（洋雑誌など）については、文献検索ができないといったような問題があり、まだまだ改善が

受入年月日	雑誌(主内容・特集記事)	巻号	通巻	発行年月日	備考
2003/02/23	ボクらのために必要？高齢患者さんへの食事指導	9	106	2003/02/01	
2003/03/20	こころなとどうする？透析スタッフの悩み相談	4	107	2003/04/01	
2003/04/17	先輩ナースから学ぶ透析ケアのキホンのキ	5	108	2003/05/01	
2003/05/16	透析患者の家族へのサポートはどうする？	6	109	2003/06/01	
2003/05/29	患者さんにキチンと説明できる 透析合併症の基礎知識	夏号 増刊	110	2003/06/16	内容: 透析器障害/代謝異常/腎臓病/神経障害/透析器感染/CAPIの活用
2003/06/12	タイプライザと透析液がわかる！	7	111	2003/07/01	
2003/07/24	もう聞かれても大丈夫！ 透析患者の検査	8	112	2003/08/01	
2003/08/28	透析患者とははじめるリハビリテーションと運動	9	113	2003/09/01	
2003/09/29	これは使える！看護緩和のテクニク	10	114	2003/10/01	

図2. 雑誌入力画面

必要な点があります。

また「目次」項目に加え、貸出・不明データなどといったような「所在」の項目も追加していきたいと思っています。

### 2. 図書管理

図書管理システムを作成した当初は、雑誌と同様にテーブルの形のままで入力していたのですが、一つの書誌データがあまりにも横長になりすぎてしまい、一度にすべての書誌データを表示することができず大変不便でした。そこで、現在はフォームを作成してデータを入力しています（図3）。フォーム、つまり入力画面を作成することができる点が『Access』の大変便利な点です。

現在入力しているデータは「書誌データ（タイトル・著者名などの基本データ）」「受入データ（受入日・受入先などの管理データ）」「請求記号」「備考」です。ここでの「備考」欄にも、上記入力データ以外で可能な限りの書誌データ（共著者名・目次など）を入力するようにしています。作成当初は書名や著者名のヨミも入力していたのですが、フォーム上での入力データがあまりにも多くなりすぎて見づらくなってしまったため現在のところは省略しています。

また「図書データ」では、「所在状況」を入力する欄を設けています。現在、ここには「○○Dr. 仮貸出中」「受入準備中」などのような、主に配架前のデータを入力していますが、今後



図1. 雑誌一覧画面

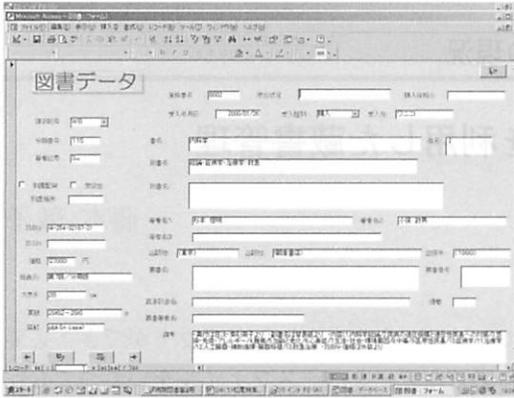


図3. 図書入力画面（フォーム）

は雑誌と同様に、貸出・不明データなども入力して、現在の所在状況が一目でわかるようにしたいと思っています。

#### IV. 便利な機能

ここで、私が「便利だな」と思う『Access』の機能を御紹介させていただきます。

まずは“図書管理”の項でも述べさせていただきましたが、“フォームが作成できる”点だと思います。『Excel』で多項目のデータを入力すると、一つの書誌データが横に長くなり、一度にすべてのデータを表示することができません。しかし『Access』では、フォームを作成することにより一画面ですべてのデータを表示することができます。また、同じ画面からデータ入力もできるため、作業がしやすく大変便利です。

もう一つは“条件にあったレポートを作成できる”点です。この機能は、データ中の必要項目だけを取り出し、その中で基準になる項目ごとにレポートを作成することができるというも



図4. 図書レポート画面

のです。私の場合は、出版年を基準にして廃棄対象資料をまとめたり（図4）、分類番号を基準にして行方不明資料を探したりするときに利用しています。またこのレポートは、自分でレイアウトも作成できますので、私の場合は目的にあわせて見やすいように形式を変更し、プリントアウトするようにしています。

#### V. まとめ

現在、当図書室で『Access』を利用して管理している業務はほんの一部に過ぎず、大半は『Excel』で作成して目的ごとにフロッピーへ保存しています。これは、利用している担当者本人が、まだ極わずかしに『Access』を理解できておらず、本来の機能の数パーセントしか使いこなせていないためです。今後はもっと勉強して、より使いこなせるようになり、当図書室で行っている図書業務の大半が『Access』を利用して、管理できるように作り替えていきたいと思っています。